

二〇二六年三月二八日

生牡蠣の雫一滴溢すまじ
前撮りの白無垢映ゆる花の下
キャンパスは幼なも憩ふ花の園
杜深き闇より覗く藪椿
聖堂の木椅子の堅し花の冷
神苑の初音にしばし耳を貸す
漣の綺羅に揉まるる花の屑

澄子
うつぎ
みきえ
あひる
うつぎ
やよい
康子

二〇二六年三月二七日

セピアなる庭に早緑芽吹きけり
ゆるやかに蛇行す春の野川かな
地鎮祭禰宜に祓はれ山笑ふ
御門守る衛士も笑顔や花万朶

むべ
うつぎ
わたる
康子

二〇二六年三月二六日

故郷の畦に摘みきし蓬餅
岩神の大注連縄に落椿
春風や手足伸ばして少女像
春愁や人語解する犬とゐて

うつぎ
やよい
風民
澄子

二〇二六年三月二五日

木々の黙一気にはどく芽立ちかな
ポケットにピアス見つかる春コート
糠雨にけぶりし枝垂柳かな

澄子
もとこ
せいじ

二〇二六年三月二四日

神殿の破風に挿頭す桜かな
花堤一会の人と撮しあひ
水温む池に檜皮の塔の影

やよい
康子
よし女

二〇二六年三月二三日

幼な児の片言めきし初音かな
青空へ透ける白さや利休梅
寒桜戦災慰霊碑に点る
聴くだけのラジオ体操春眠し
卒業式立て看板の残りけり
古書店に並ぶこけしや街おぼろ
漣に見え隠れする蘆の角

よし女
ほたる
やよい
よし女
みきえ
なつき
ほたる

二〇二六年三月二二日

つくりと辿る水辺の花朧

むべ

毎日句会みゆる選・二〇二六年三月三〇日